CPD 8単位（こちらをご確認ください）

シンポジウム
ニュータウン開発のその後の動向を追う

建設から約半世紀という時間を経たニュータウンや団地が、この間に生じた諸問題にどのように対応し、いかなる変化をとげたのか。関東エリアにおける４事例「たまプラーザ」「朝霞浜崎団地」「多摩平団地」「ユーカリが丘」を対象として、事例関係者をパネリストに迎えてニュータウンのこれまでと今後について討論する。

コメンテータ

小場瀬令二（筑波大学名誉教授）
天野克也（東京都市大学）

パネリスト

高鍋剛（都市環境研究所）
韓亜由美（前橋工科大学）
高原功（UR 都市機構）
※事例解説のみ
長岡篤（日本大学）

司会

片山律（千葉工業大学）

プログラム

14:30　受付開始
15:00　シンポジウム開始
①主催者挨拶・趣旨説明
稲見成能（前橋工科大学）
②ニュータウン事例解説
・たまプラーザ（高鍋氏）
・朝霞浜崎団地（韓氏）
・多摩平団地（高原氏）
・ユーカリが丘（長岡）※
③討論、質疑応答
17:30　シンポジウム終了

開発から約 60 年が経過した東急田園都市線**たまプラーザ**駅北側地区において「既存のまちの持続・再生」「人口減少・高齢社会問題への対応」等を基本理念とした「次世代郊外まちづくり基本構想 2013」が横浜市等によって策定され、郊外住宅地の持続と再生に向けた 10 の取組みを打ち出している。また戸建て住宅地区においては先行して住民参加型まちづくりの活動成果がみられる。

築 40 年近く経過した**朝霞浜崎団地**は、経年変化による建物の劣化やニーズの変化等によって、賃貸住宅としての競争力の低下が顕著となっていた。その解決策として、当団地の全体的な価値を向上させることを目的に、複数のデザイナーやアーティストの“デザイン力”を導入したリニューアルが試みられ、住棟の内外の共用部と外装デザインをリニューアルすることで従来のイメージを一新するものとなった。

昭和 30 年代に建設された**多摩平団地**は、平成 8 年度より賃貸住宅の建替えをはじめ団地再生事業が行われてきた。賃貸住宅の建替えは、日野市・住民・UR 都市機構三者の WS 等による古き良き団地空間を継承した環境配慮型プロジェクトとして注目され、また建替え事業だけでなく民間事業者による既存住棟を有効活用した「住棟ルネッサンス事業」が実施され、地区計画等に基づく複合的なまちづくりが進められている。

千葉県佐倉市に位置する「**ユーカリが丘**」は、山万株式会社による 1971 年の開発開始以来、毎年の分譲戸数を約 200 戸に限定して入居者の年齢構成が偏らないよう開発を行ってきた。また地区ごとに決められた地区計画による街並み景観の統一を図るとともに、福祉の街づくりの視点に立ったユニバーサルデザインの思想を導入している。

日時：2016 年 3 月 2 日（水）　15:00～17:30

場所：日本大学理工学部1号館3階133教室　（東京都千代田区神田駿河台 1-8-14）

参加費　（資料代含む）
会員　1,000 円　　会員外　1,500 円
学生　無料　　（定員 50 名）

お申込みはこちらから⇒

主催：日本建築学会関東支部都市計画専門研究委員会
協賛：西松建設株式会社
問い合せ先：日本建築学会関東支部　事務局
TEL：03-3456-2050　　メール：kanto@aij.or.jp